

**【学習のねらい】**

- ・地雷について知り、撲滅に貢献しているクリス・ムーンさんの姿を通して平和と生命の大切さを考える。
- ・クリス・ムーンさんが走る4つの目的を理解し、自分へのメッセージとして受け止める。

**【準備するもの】**

- ・写真をグループに一枚（A3版に拡大するとおおよい）
- ・資料1「クリス・ムーンさんと地雷」
- ・資料2「クリス・ムーンさんが走る4つの目的」

**【進め方】**

（3、4人のグループになって自己紹介。必要に応じてアイスブレイク。）

- (1) [写真を配る] 写真を見て「わかったこと」を中心に、自由に話し合う。
- (2) グループで出されたことを、全体で発表し合う。
- (3) [資料1を配る] 資料1を読み、クリス・ムーンさんと地雷について知る。
- (4) クリス・ムーンさんはなぜ地雷撲滅のために活動しているのかをグループで話し合う。
- (5) グループで話し合ったことを全体で発表し合う。
- (6) クリス・ムーンさんの走る目的について考え、話し合う。
- (7) [資料2を配る] 4つの目的について理解する。
- (8) 自分がクリス・ムーンさんの生き方から受け取ったメッセージを発表し合う。

**【留意点】**

- (1) 進め方(4)では「地雷を一つ除去することは、一つの命を救うことなのです」のクリス・ムーンさんの言葉から考える。
- (2) 進め方(8)ではクリス・ムーンさんの生き方そのものを我々へのメッセージととらえ、自分の受け取ったメッセージは何かを考えながら、まとめとする。

【写真】



**Mines and The Olympic Flame  
: Life is all about other people**

クリス・ムーン

1962年5月5日  
イギリス生まれ

地雷についての情報

1993年 ハイロー・トラスト(危険地域人命支援組織)に入る。

1995年 地雷撤去活動中に触雷し、右手・右足を失う。入院中に見たロンドンマラソンに義足で参加を決意。

1996年 ロンドンマラソン(初のフルマラソン)を5時間29分で走る。

1996年 結婚

1997年 食料と水を背負い、250キロの砂漠を走るサハラマラソンを完走。

同年 200キロを4日間で走るオーストラリアマラソンを完走。

1998年2月7日 長野オリンピックで最終聖火ランナーとして開会式に出場。その2日後、「難民を助ける会」主催の箱根一東京間120キロのチャリティマラソンに参加、15時間45分でゴール。

1999年 カンボジアで17日間かけて700キロを完走。

2000年 バッドウォーター・デスバレー・ウルトラマラソン300マイル(約480キロ)完走。このマラソンは世界中で最も長く、最も暑く、最も険しいといわれている。

- ・直径は、10センチメートル。
- ・値段は1個300円のものからある。「24時間眠らない兵士・沈黙の殺し屋」ともいわれ、爆発するまで有効。
- ・地雷は対人地雷と対戦車地雷の2つに分けられる。
- ・大半が対人地雷で、大人に重症を負わせることが目的。子どもは死亡することもある。
- ・対人地雷は、約5kgの重さで爆発する。だから、子どもが踏んでも爆発してしまう。
- ・負傷するように考案されたものが多い。殺すよりも負傷させる方が、輸送を妨げ、士気に影響を与えるなど敵へのダメージが大きいから。
- ・もともと地雷は、国境線にそって埋められていた。今ではどこに埋まっているかわからなくなっている。
- ・世界170数カ国のうち、64ヶ国に、1億1千万個が埋められている。
- ・踏めば爆発、10度傾ければ爆発、光センサーで光があたれば爆発、電気回路を切った瞬間に爆発と、いろいろな工夫がしてある。
- ・探知されないように、セラミックスやプラスチックの地雷もある。
- ・足が引っかかるように工夫されたものがある。
- ・チョコレートの形、おもちゃのような形まである。
- ・西欧の国々でつくられ、輸出している。
- ・日本は製造していない数少ない国の一つである。
- ・1個1個、人の手で除去するしかない。  
1個除去するのに、費用は10万円くらいかかる。
- ・地雷を年10万個ずつ除去しても1100年間かかる。
- ・1時間に3人の被害。年間2万4000人の被害者。
- ・リハビリの人が25万人。1人30万円以上かかる。

ぼくが義手・義足で過酷なマラソンをするのには、4つの目的があります。

**1** 自分の走る姿を見て、地雷の恐ろしさ、地雷被害国の人たちの苦しみをたくさんの人たちに知ってもらい、今なお地雷を製造し続けている国があるという事実に気づいてほしいから。

**2** 健常者にも、障害者にも、自分が本気にさえなれば、自分や周囲が決めた限界を超えて、何でもできるのだということを知って欲しいということ。何かを始めなければ、何も起こらない。

**3** 子ども達に、人生は決して公平ではないということを知ってもらいたいということ。

正直言えば、ぼくだって地雷なんて踏みたくなかった。でも、いやなことや困難なことがどうしても起きてしまうのが人生だ。

つらいことに向き合った時に、どう生きていくかが大切で、自分だけが損をしているように感じて、運命に悪態をついたって、誰も助けてはくれないことに早く気づいて欲しい。不公平な状況を乗り越えるには強い反骨精神が必要だということを、子ども達に伝えたかったから。

**4** 自分自身のため。自分の限界への挑戦を通して、より深い喜びと、生きる勇気を得るためである。大きな目標を掲げて、自分が納得するまでやってみたいから。